

二〇一〇年四二五日(日) 礼拝 説教者：野田勝利師  
主題：『神にえこひいきされる人』 ネヘミヤ記一章一〜八節

(新共同訳)

「アルタクセルクセス王の二十年、二サンの月のことであつた。王はぶどう酒を前にし、わたしがぶどう酒を取つて、王に差し上げていた。わたしは王の前で暗い表情をするとはなかつたが、王はわたしに尋ねた。『暗い表情をしているが、どうかしたのか。病気ではあるまい。何か心に悩みがあるにちがいない。』」

わたしは非常に恐縮して、王に答えた。

「王がとこしえに生き長らえられますように。わたしがどうして暗い表情をせすにおれましよう。先祖の墓のある町が荒廃し、城門は火で焼かれたままなのです。」

すると王は、「何を望んでいるのか」と言った。わたしは天にいます神に祈つて、王に答えた。

「もしも僕がお心に適い、王にお差し支えがなければ、わたしをユダに先祖の墓のある町にお遣わしてください。町を再建したいのでございませう。」

王は傍らに座つている王妃と共に、「旅にはどれほどの時を要するのか。い帰れるのか」と尋ねた。わたしの派遣について王が好意的であつたので、どれほどの期間が必要なのかを説明し、更に、わたしは王に言った。

「もしもお心に適いますなら、わたしがユダに行き着くまで、わたしを通過させるように、ユフラテス西方の長官たちにあてた書状をいただきたく思います。また、神殿のある都の城門に梁を置くために、町を取り巻く城壁のためとわたしが入る家のために木材をわたしに与えるよう

に、と王の森林管理者アサフにあてた書状もいただきたく思います。」

神の御手がわたしを守つてくださったので、王はわたしの願いをかなえてくれた。

### 紀元前四五年頃 イスラエルの民は・・・

\* 約一五〇前にバビロニア帝国に敗れ、捕虜としてバビロンに連れて行かれました。

\* 約一〇〇年前からは、ペルシア帝国に支配されています。ペルシアの王は寛大で、すぐにエルサレムへの帰還と神殿再建の許可を与えてくれました。(エズラ記)

\* けれども、一世紀経つてもエルサレムの城壁再建はいつこつに進まず、町は荒廃していました。その状況を伝え聞いたネヘミヤは、王に支援を願い出ます。

### ネヘミヤ記一章一〜七節のあらすじ

ネヘミヤ：王の献酌官(酒の毒見と給仕役)

城壁再建のために祈り続けていた。すると、ある事件が・・・

\* ネヘミヤが、つい王の前で暗い顔をする、王は悩みの原因を尋ねてくれました。

\* ネヘミヤが、エルサレムの悲惨な状況について話すと、何と王は願ひ事について尋ねてくれました。

\* ネヘミヤは祈りつつ、再建許可と資材の援助を願ひます。

すべてOK

メッセージポイント

( )な願いを持ち、祈り、

行動しよう。

参照)マルコによる福音書10:50-52

盲人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た

イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。

盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。

そこで、イエスは言われた。

「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

盲人はすぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。

「神様に」

「されている

存在だ」という自覚を持つよう。

参照)1:9 王は傍らに座っている王妃と共に、「旅にはどれほどの時を要するのか。いつ帰れるのか」と尋ねた。わたしの派遣について王が好意的であったので、どれほどの期間が必要なのかを説明し、

参照)1:8 神の御手がわたしを守ってくださいだったので、王はわたしの願いをかなえてくれた。